

## 第4回文京区アカデミー推進計画策定協議会

日時：平成22年3月23日

午後6：30～8：20

場所：文京シビックセンター24階

区議会第1委員会室

文京区アカデミー推進部アカデミー推進課

第4回文京区アカデミー推進計画策定協議会会議録

(敬称略)

「出席委員」

会 長	山崎 一穎
委 員	青木 和浩
委 員	伊藤 明子
委 員	新保 邦彦
委 員	長尾 栄一
委 員	和田 懋
委 員	内野 篤
委 員	武智 弘英
委 員	清水 智博
委 員	本松 邦廣
委 員	佐藤 成臣
委 員	榊田 慶輝
委 員	田辺 武之
委 員	白鳥 宗一
委 員	中川 澄子
委 員	檜崎 華祥
委 員	白井 圭子
委 員	奥田 匠
委 員	佃 吉一
委 員	森岡 隆
委 員	市川 正明
委 員	大石 坦
委 員	大野 祐子
委 員	熊田 美穂子
委 員	黒木 美芳
委 員	國分 眞史
委 員	柳澤 愈
委 員	山本 重子
委 員	渡辺 みゆき
委 員	徳田 隆

「幹事」

アカデミー推進部アカデミー推進課長	毛利 俊光
アカデミー推進部観光・国際担当課長	小野 光幸
アカデミー推進部スポーツ振興課長	太田 治
企画政策部企画課長	小野澤 勝美

**毛利課長**：それでは時間がきましたので、会長、開会をお願いします。

**山崎会長**：それでは、平成 21 年度第 4 回文京区アカデミー推進計画策定協議会を開催します。お忙しいところをお集まりいただきましてありがとうございます。だいぶ会を重ねてまいりまして、いよいよ 4 月から分科会が始まってまいりますが、本日は、アンケートの集計が出てまいりましたので、その集計結果の区民の動向を踏まえた上で、分科会の議論にどのような形で移行していくかということをお話し合っていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。まず、出欠の状況と本日の資料の確認のほうをお願いします。

**毛利課長**：それでは事務局から、出欠の状況を報告いたします。水越委員、久松委員、村松委員、上田委員、高橋委員、野口委員、の 6 名の方から事前に欠席のご連絡いただいております。なお、幹事は全員出席でございます。

続きまして、お手元の資料の確認をいたしたいと思っております。本日席上に 6 点ほど配付いたしました。「座席表」、「第 3 回協議会の会議録（案）」、「文京区アカデミー推進計画の基礎調査報告書（案）」、「第 1 回分科会スケジュール」、「推進計画策定協議会のご意見シート」最後に地図で「文京ミュージネットマップ」、こちらは、文京区の博物館、美術館等の連携のための施設を網羅したマップです。参考に配付いたしました。以上、資料確認です。もし、ない方ございましたら、事務局のほうへお申し出ください。

**山崎会長**：それでは、議事を具体的に進めていくにあたりまして、まずお手元に配付されております会議録、議事録につきまして、本日お持ち帰りいただきまして、3 月 30 日までに確認をお願いいたしたいと思っております。訂正がございましたら事務局へご連絡ください。訂正に基づいて調整した後に会議録を公開したいと思っております。なお、併せてご意見シートのほうもよろしくお願ひいたします。

**毛利課長**：事務局の方から、会議録ですけども、訂正は文書でいただきたいと思っております。ファックスまたはメールで結構です。ただし、非常に簡易なものについては電話でもお受けいたしますので、その後、山崎会長に確認し、ホームページ等に公開させていただきます。よろしくお願ひいたします。以上です。

**山崎会長**：どうもありがとうございました。それでは本日の議事に入りたいと思っておりますが、議事の第 1 が「アンケート調査集計の結果報告について」ということになります。そしてその報告を受けて、アカデミー推進計画の基本理念、あるいは目標等のまとめについては、さらにそこでご意見を伺いたいと思っておりますが、まず、事務局のほうからアンケートの集計を、おそらく 30 分程度時間を要するかと思っておりますが、よろしくお願ひいたします。

**毛利課長**：それでは、事務局の方から、こちらのアンケート調査結果報告ということで、お手元の次第で、正式名称は「文京区アカデミー推進計画基礎調査報告書」という形で席上に配付してあると思っております。そちらで概要についてご説明したいと思っております。ご覧ください。

まず、表紙をめくりまして、1 ページをお開きください。1 ページのほうに調査の目的等、これはすでにご案内のとおりなのですが、今回の調査はアカデミー推進計画策定のための基礎資料を得ることを目的として実施したものです。この調査結果に基づきまして、今後の 5 分野別の分科会における検討資料となるわけです。調査の概要といたしましては、ご案内ですけども、今回の回収関係ですが、7 番で配布が無作為抽出で 2,000 人です。回収数が 692。回収率が 34.6 パーセントの回収を得ております。

続きまして、具体的の中身のほうに入ります。その都度ページをお示ししますので、そのページをお開き下さい。ページでいきますと、まず 3 ページ、お開き下さい。調査結果の中の調査票の記入者の属性についてですけど、まず、性別ですけども、調査の対象で、回収の中から性別は男性が 28.4 パーセント回収です。女性が 47.3 パーセントという形で女性が多くなっております。それから年齢別で見ますと、70 歳以上が 21.4 パーセントで最も高く、20 歳代が最も低くて 11.3 パーセントとなっております。

す。

続きまして、ページが飛びまして9ページをお開きください。9ページは同じ属性の中で通勤・通学されている方にお伺いしているという形で、通勤・通学先はどちらかというところで、通勤・通学先は、全体では区外近隣区が39.7パーセント、最も高く、続いて文京区内が23パーセントということになっております。

続きまして、ページをめくりまして10ページをご覧ください。こちらは文京区の調査対象の方ですね、文京区にお住まいになって何年になりますかという問いに対しまして、文京区での居住年数、一番多いものが20年以上が最も多くて42.5パーセント、それ以下1年以上5年未満、5年以上10年未満という形になっております。

続きまして、ページ変わります、15ページをお開き下さい。15ページでは文京区のイメージについて聞いております。文京区についてどのようなイメージをお持ちですかという問いに対しまして、文京区のイメージとして一番多いのが、交通の便がよい68.9パーセント、続きまして坂や路地が多い67.9パーセント、続きまして歴史や伝統があるが64.3パーセント、治安がよいが60.2パーセント、大学が多くアカデミックな雰囲気があるが58.8パーセントといった比率になっております。

続きまして、具体的に分野別に入ります。続きまして、17ページをお開きください。こちらは、こちらから文化芸術活動についての問いになります。最初の問いは、この1年間くらいの間に、文化芸術活動に参加したり鑑賞したりするために、文化施設に足を運びましたかという問いに対しまして、一番パーセントで多いのが、参加したことはないが鑑賞したことはあるという37.3パーセントの方がいらっしゃいます。その次の比率で、参加したことも鑑賞したこともないというのが33.4パーセントという比率になっております。

それではそれに関連しまして、同じ文化芸術のところで21ページをお開き下さい。21ページでは、先ほどの文化芸術活動に参加したことも鑑賞したこともないと答えた方で、文化芸術活動に参加も鑑賞もしなかった理由はどういう形の問いに対しまして、回答が一番多いのが、仕事・学業や家事・育児などで忙しいからが54.5パーセント、最も高く、続きまして、文化芸術に関する必要な情報がどこにあるかわからなかったからというのが22.9パーセントという比率になっております。

続きまして、次の分野に入ります。続きまして、30ページお開きください、こちらは生涯学習についての、30ページです。生涯学習についての問いです。この1年間くらいの間に生涯学習に取り組みましたかという問いに対して、取り組んだと答えたものが41.4パーセント、取り組んだことはないと答えたものが57パーセントという比率になっております。

生涯学習関連で、これに関連しまして、ページをめくっていただきます、32ページ、同じ生涯学習に取り組んだと答えた方なのですが、取り組んだ生涯学習の内容はという問いに対しまして、第1番目に高いのが教養的なもの(文学、歴史、自然科学など)、教養的なものが36.4パーセントで最も高く、続いて仕事に関係のある知識習得や資格取得などが26.6パーセント、以下この表があるとおりです。

続きまして、同じ生涯学習分野で、34ページをお開きください。34ページ、こちらは生涯学習に取り組んだことはないとお答えになった方について、生涯学習に取り組んでいない理由ということでお伺いしました。一番高いのが、仕事や家事が忙しくて時間がないからが50.3パーセント、続きまして、きっかけがないからが25.6パーセント、それから講座や教室などが行われる時期・時間が合わないからが23.6パーセント等々の比率になっております。

続きまして、次の分野になります。スポーツ関係にまいりまして、45ページ、45ページをお開きください。45ページにスポーツ活動についてというところで最初の問いです。日頃、スポーツをしていますかという問いに対しまして、スポーツを日頃していると答えたものが48.9パーセント、していないと答えたものが50.4パーセント、ほぼ半分、半分の比率になっています。

同じスポーツ関係で関連しまして、51ページをお開きください。51ページ、スポーツをしていると答えた方の中から、スポーツをしている主な理由として一番高かったのが、健康維持・体力向上のための79.0パーセント、続いて運動不足の解消のための58パーセント等々となっております。

続きまして、同じスポーツ関連で、ページの56ページをお開きください。こちらではスポーツをしていないと答えた方に対する問いです。スポーツをしていない主な理由はどういう問いに対しまして、一番高かったのが、仕事・家事・育児で忙しいからが45.7パーセントで最も高く、続きまして、きつ

けないからが 25 パーセントという等々の比率になっております。

続きまして、同じスポーツ関係で、66 ページをお開きください。66 ページです。こちらではスポーツに取り組むための条件としてどんなものがあるかという問いに対しまして、一番多いのがスポーツ施設の利用料金が安くなるが 32.4 パーセントと最も高く、続きまして、スポーツ施設の増加が 28.1 パーセント等々です。

続きまして、スポーツが終わりまして次の分野に移ります。次の分野は国際交流関係で 69 ページをお開きください。69 ページ、これはこれまでに外国へ行ったことがありますかという問いに対して、これまでに外国へ行ったことがあるが 78.7 パーセント、ないが 18.7 パーセント、ほとんどの方が外国へ行った経験があるという回答になっております。

国際交流関係に続きまして、75 ページをお開きください。75 ページは、地域における外国人とどのように交流していますかという問いに対しまして、地域の外国人との交流は、付き合いはないと答えた方が 50.4 パーセントで最も高く、続きまして、近所で外国人を見掛けないが 13.6 パーセント等です。最後のほうで多少なりとも外国人との交流があると答えた方は 29.8 パーセントとなっております。

国際交流関係、続きまして同じく国際交流関係で、ページでいきますと 81 ページをお開きください。こちらは 81 ページ、こちらは外国人とともに暮らすための取り組みはどのようなことが必要だと思いますかという問いに対して、一番比率が高かったのは、日本人と外国人の懇談会や交流の場を設けるが 44.3 パーセント、最も高く、続きまして、外国人向けの日本の文化や生活習慣の講座を開催するが 44.1 パーセントです。こういった比率になっております。

続きまして、次の分野で観光の分野に移ります。観光の分野、83 ページをお開きください。83 ページでは、文京区の観光情報発信の手法について、どのようなことが必要だと思いますかという問いに対しまして、一番比率が高かったのが、区、観光協会のホームページの内容の充実が 31.4 パーセント、最も高く、続きまして、新聞、テレビ、雑誌を活用した情報提供が 22.1 パーセントになっております。

続きまして、同じ観光関係でいきますと、87 ページをお開きください。87 ページ、こちらはこの F2 で回答した地区というのは、あなたがお住まいの地区という問いで、あなたのお住まいの地区で、あなたが自慢できるところや自慢できるものにはどのようなことがありますかというのをご自由にお書きくださいということです。これは各地区別に出ております。後ほどご覧いただければと思いますが、地区の特色がいろいろ出ておりますので興味深いところでありまして。各地区が一覧になっております。

続きまして、91 ページをお開きください。91 ページです。こちらは、あなたは「アカデミー」と聞いてどのようなイメージが浮かびますかという問いに対してのお答えです。一番多いのは、「アカデミー」のイメージは趣味、教養を深めることが 66.0 パーセントで最も高く、続きまして講座や学習活動を行うことが 38 パーセント、それから生涯を通じて学ぶこと 34.7 パーセント等が比率になっております。

続きまして、最後のほうになります。100 ページをお開きください。100 ページ、これは自由意見になります。今後の生涯学習、5つの分野ですね。に関して、ご意見・ご要望等をご自由にお書きくださいというところでは、例えば事業内容の充実というところで、生涯学習のところで見ますと、ポッチの下、3番目の文京区ならではの特色を出してほしい。例えば、大学が多い地域特性を生かした、大学の施設等を活用した企画等々の意見が出ております。

それから文化芸術では、1番目のシビックホールで何らかの大々的な催し物があると地域は盛り上がると思うといった意見や、スポーツ関係では、スポーツ大会を多く開催することでまちが元気になるといった意見です。観光分野では、文京区は歴史のある建造物・エリアが他より圧倒的に多いため、国内外の旅行者にユニークなアプローチが可能だと思うといったような意見です。国際交流では、外国人観光客を増やしていけるような取り組みを行い、文京区の活性化を図っていただけないかといった意見が出ております。

そのほか、項目で分けますと機会提供の参加のための工夫の中では、例えば真ん中辺で、1回だけの単発の講座のような体験シリーズを増やしたら参加のきっかけになると思うといった意見とか、情報提供、宣伝方法の工夫のところでは、文京区には「これがシンボル」というものがないため、テレビ番組・有名な映画とのタイアップのような有効な方法での宣伝が必要不可欠になると思うなどの意見があります。それから、施設・場所の確保の中では、中間、真ん中あたりに、施設は十分あると思うとありま

して、地域にある学校・交流館・公園・空き地等を利用し、子どもから老人まで全世代が交流できる場を区と区民が協力してつくっていきけるとよいと思う。それから、時間帯の配慮というところでは、働いている世代が参加しやすい時間帯・場所・内容をぜひとも考えていただきたいといった意見です。そのほか、費用について、成果披露について、教育機関との連携、人材について、仲間づくり、最後に文京アカデミー推進計画についてというところで1つご紹介しますと、一番上段で、生涯学習・文化芸術・スポーツ・観光・国際振興の5つのうち、どれに一番力を注ぐのかをはっきりさせないと全部が中途半端な取り組みになりそう。どれか1つでも全国にない画期的なことをすれば、区民の関心も集まるのではといった意見も出ております。

以上が、今回調査しました基礎調査報告の概要です。この調査報告は、今後4月から分科会に分かれていただく中で、資料として活用していただければと思います。報告は以上で終わります。

**山崎会長：**どうもありがとうございました。委員の皆さん方が、今報告を聞かれまして、何かご質問のある方がありましたら、ご質問を受けますので。

**佐藤委員：**生涯学習担当の佐藤です。タイプAとかタイプBとか書いてあるのがあったんですけど、そのところを教えてください。

**毛利課長：**ページ数でいきますと11ページ、12、13、11ページ開いてみてください。ライフスタイルについての設問です。例えば今回の設問の中の一つ最後に、「あなたの日頃の生活行動や意識について最も近いものをお選びください」ということで設問しまして、それをいろいろタイプ別に分類しております。タイプAからEまでの5つの段階のタイプ別に分類しています。どのようなタイプの方がどのようなことを望んでいるのかといったことを目的に調査しております。そういった中でタイプ別ということで、今回調査させていただきました。

これはライフスタイルの調査ということで、今回の調査で普通分類の基本になるのが、性別とか、年齢とか、未婚、職業とかいった、その属性の項目で調査しているわけなのですが、そういった形だけで、例えば平均的な結果や多数派だけに着目するのではなくて、多様な志向で価値観を持つ区民を把握して、どういう行動傾向があるのかとか、関心項目はどんなことがあるのかというのをタイプ別に分類したわけです。それをA、B、Cという形で分類しました。そのタイプの方がどういうことをしているかということをはほかの調査項目とクロスして出しているわけです。その辺がタイプ別調査です。以上です。

**佐藤委員：**すいません、もう少し詳しく教えていただきたいのですが、タイプAというのは具体的にどんな想定なののでしょうか、それともこのSPSSというのを検索すれば出てくるものなのですか、私が見た範囲ですと、タイプAというのはリーダー格、タイプBというものが例えば努力型とか、タイプCはオタク型みたいな感じで出ているように想定するのですけれども、そこら辺のところのタイプAはどのような人物像かということをお伝えください。

**毛利課長：**ページ数でいきますと14ページをお開きください。14ページ見ますと、一番下の段に日ごろの生活行動や意識等の項目因子負荷量というところにタイプA、タイプBからタイプEまであります。例えばタイプAというのが、因子1、それから因子3、因子4というところに着目しているわけです。上の因子で見ますと、例えば因子1というところで、黒く数字が高くなっているのは、例えば「グループの中で注目の的になりたい」とか、それから「洋服など買うとき目立つものを買うほうだ」とか、「ファッションのためにお金、時間をかけて惜しくない」といった方々の項目にタイプAに近いのではないかと、そういった形で分類しています。

ネーミングみたいのはちょっとしてないのです。当初ネーミングをしようかと思ったのですが、共通のネーミング、要するに一般化、学術的にこのネーミングはこうというのが定着してないのです。そういうことでネーミングすることはやめました。それでA、B、Cという形で分類しました。

**山崎会長：**今あの、表の読み方がわかってくだされば、少なくともその項目をたどっていけるだろうと思います。例えばそういうことできちんとした特色になるのかどうかというのはかなり難しいところはありますけれども、そういう分類だというふうの一つ見てください。ほかにございましょうか。

**柳澤委員：**この1ページの回収率34.6パーセントというのは、ほかのあれに比べて高いのですか、低いのですか、どういう。

**毛利課長：**私ども正直な話、今回の調査は分野が5分野にわたりまして、設問の数も28問と多いのですが、設問はかなり減らしたのです。にもかかわらず結構難しいと、われわれもそう実感しまして、極力設問を簡単にしました。当初予想では低い回収率になるのではないかと正直な話思っておりまして、いざ開いてみますと30パーセント超しましたので、われわれの予想よりはよかったかなと思っております。

**山崎会長：**予想ということもあるでしょうけど、もう1つは統計的に、信頼できるパーセンテージとしてはじき出されるかどうかという、その辺のところだと思うのですよ。

**毛利課長：**私どもが聞いているのは、調査対象者である文京区に在住する満20歳以上の男女の中から無作為抽出した2,000人の標本数について、回収率が2割程度まで確保できれば個々の設問における信頼度が損なわれる危険は、小さいと聞いておりました。

**山崎会長：**はい、ありがとうございます。一応統計として、一応信頼できる範囲の中に入っている、そんなふうに理解してください。ほかに何かございましょうか。そうしますと、今度はこういうものを頭の中に入れながら、推進計画の基本理念とか、目標という、まとめのところとどんなふうにリンクしていくのかということになるのだらうと思うのですね。そういう点で少し、次の資料の説明をいただいたうえで、委員の皆さん方のご意見を伺いたいというふうに思いますので、事務局のほうで少し進めてくれますか。

**毛利課長：**お手元の資料で資料第25号「文京区アカデミー推進計画の策定にあたって（案）」というのをお開きください。資料第25号「計画策定にあたっての（案）」というところです。こちらをご説明します。まず1としまして、アカデミー計画の策定にあたってという資料です。資料第25号です。1番目に計画策定の背景といたしまして、この背景につきましては何度か説明をしているかと思しますので、確認の意味でご覧ください。こちらはご案内のとりの文京区の「文京区生涯学習基本構想」、平成4年策定したものを始めとしまして、現在「生涯学習推進計画」並びに「文京アカデミー構想」、この3つをもって生涯学習等を進めているわけなのですが、これに対しまして昨今の社会状況の大きな変化等を踏まえまして、これまでの計画を一本化するという形で、基本理念を継承し、これまでの成果を生かしつつ、今回「アカデミー推進計画」を策定してまいります。

続きまして、計画の位置付けとしまして、こちらの計画の性格としましては、現在策定中の新たな文京区の基本構想ですね、何度かお話ししています基本構想の示す施策の基本的方向性や考え方を踏まえた上で、今回のアカデミー推進計画は具体的な方針を示すということが性格になっております。

続きまして、計画の構成としまして、総論と各論の部分に分かれております。総論は期間を区切るのではなく普遍的・長期的な視点で、文京区として今後の文京区のアカデミー推進について理想となるものを策定するというのが総論部分に当たります。

それに続きまして各論は、平成23年度から25年度までの3年間の事業計画です。これが平成21年度現在、各分野での現状と課題を把握した上で、その課題を解決するために目標、方針を定める。平成25年度までの事業推進にすることによって、期待される成果とか、数字とか、言葉等を指標によって示していきたいと考えております。

資料の2ページをお開きください。2ページの計画の基本理念に当たります、これは前回まで皆さんに議論していただいたご意見等のキーワードです、これ資料、次の26号、資料26号、こちらとしてま

とめられていたものがございます。そのまとめられた意見の中から、今回こちらの資料 25 号の中に、基本理念という形で、議論の中で多く意見のあった、特に「区内まるごとキャンパスに」というのに副題を付けまして、これは仮になんですけども、例えば副題の例としまして、「区民による・区民のための・区民のアカデミー」、これは1つの副題の例示です。2としまして、例の2としまして、「学び・集い・楽しみ」といった副題もあるのではないかということ、一応こちらに提案しております。

続きまして、3としまして、計画の基本目標というところでは、総論の基本目標については、アカデミー推進計画の対象となると、それから生涯学習、スポーツ等の5の分野を貫く基本目標を策定したいということです。これは5つの分野が必ずしも独立しているわけではなく、それぞれ関連性の高いものであるということから、5つの分野を貫く基本目標を設定するというので、分科会での議論をより広く、深いものにしていただきたいという考えで、貫く目標というのを考えております。これも先ほどの基本理念と同様に、資料第 26 号のキーワードをまとめまして、その中から基本目標として3つにまとめたものです。これが基本目標の案です。

続きまして、次ページ4ページをお開きください。4ページでは計画の基本的視点ということで、こちらは基本目標を達成するために何をやるのかという手段を基本的視点としてまとめたものです。基本的視点としまして、基本目標と同様に5つの分野を貫くものを設定しました。これも資料第 26 号のキーワードをまとめたものです。5つにまとめてございます。その下のほうで、なお、今回の基本目標、基本的視点は5分野を貫くものです。それ以外にこの米印で書いてある分野別の、後ほどこれから分野別の分科会に移るわけですけど、分野別の目標、方針を4月以降の分科会にて検討する予定であります。以上が策定にあたってということです。

**山崎会長：**はい、今ご説明いただきました資料の 25 号なのですが、それは基本的には 26 号を踏まえて出てきているわけですね。そうですね。

**毛利課長：**ちょっとよろしいですか、追加で申し訳ないですが、具体的に計画の基本目標を3つ上げました。例えばアカデミー推進計画の基本目標、「1 区民一人ひとりが主役」と、「2 活動を通じた交流の促進と新たなコミュニティの創造」、「3 多彩な連携によるネットワークづくり」といったそれぞれの目標を取りまとめております。

**山崎会長：**もう少しこの対応を、つまり、基本の理念と目標との関係ですね。それをもう少し説明していただけますか。

**毛利課長：**基本目標とか、基本的視点とか、理念とか、なかなか区別することが難しいとこなのです。まず基本理念ですが、具体的に今回は「区内まるごとキャンパスに」というのは、今までの議論の中でもかなり評価される方も多いということで、今までの構想を引き継ぐような形で、基本理念として大きく掲げているわけです。それを説明する意味で、副題をこの例1、例2という形で提案しているわけです。必ずしもこれで完成したものではなくて、協議会の中で、この基本理念、基本目標等、ちょっと方向性、考え方を示した上で分科会に入らせていただきまして、そこで分野別に進めていただいて、それが戻ってきて、また協議会でこの基本理念の再検討を行う、そういった形で進めたいと思っております。

**山崎会長：**そのことは良くわかるのですが、おそらく皆さん方に戸惑いがあるのは、例えば大きく言えば「区内まるごとキャンパスに」、これはいいですね。その次に新たな基本構想という形で、「みんなが主役のまちをつくります」と、1、2、3となっていますよね。この1、2、3と次のページの3ページのアカデミー推進計画の基本目標の、例えば1、2、3と、対応しているのか、してないのか。

**毛利課長：**無理やり対応させているわけではなく、ここに文京区の基本構想を載せているのは、常に基本構想も頭の中に入れて整合性を取りたいという趣旨で載せてあります。必ずしも基本構想の1、2、3と基本目標の1、2、3をすべて対応させているということではないです。結果的に26号の資料をまとめますと、キーワードとしてこのようにまとまった形になり、対応している部分はあるんですけど



も、番号を意識してまとめているわけではないのです。

**山崎会長：**ただ、そののところでおそらくご意見を伺いたいと思うのですね。意識せずして比較的近いところへ来ていると。例えば「みんなが主役のまちをつくります」ということは、「区民一人ひとりが主役」なんだと、こういうふうにつながってくじゃないかと。一番いいのはきちんとそうやってつながっていくと、一番、この間うちから理念と目標とどう違うのだということがわかる、その対応がうまくいく形になるんだらうと思いますけども、今かなり近いところにはある。そういうところで意見を伺いたいというふうに思っておりますが。どうですか、自由に1つご発言いただきたいのですが。

ただ、その前に1つ今日欠席の国際交流座長の久松委員から、国際分科会でこの間若干の打ち合わせをやった中で、基本理念に「交流」という文字を入れていただくようにというご意見はいただいております。特に「交流」というキーワードが大切なのだという、そのことは踏まえてください。

理念にしても、目標にしても非常にわかりやすい言葉で表現されているので、その点では、流れとしてはいいのだらうと思うのですね。どうぞ自由に1つご意見、先ほどのアンケートの結果なんかも踏まえながら、ありましたら自由にご意見をいただきたいのですが。

**奥田委員：**3ページ、観光分科会の奥田でございますが、3ページのところの基本構想素案のところには、観光のところで「何度も訪れたいくなる」云々という形で書いてあって、非常にわかりやすい置き方になっているのですが、今後の分科会の議論というのは、その「何度も訪れたいくなる」云々というあたりを出発点にして議論をすればいいのか、あるいは上のアカデミー推進計画の基本目標で、これもまた非常にぼわっとした言い方なのですが、そこいら辺を出発点にするのか、出発点がどっちなのか教えていただければ。

**毛利課長：**基本的にこの基本目標は、それぞれの分野を貫く基本目標という形で、今抽象的だというお話かと思うのですが、限定しない基本目標という形で、要するに分野ごとにそれぞれ関連性があるのではないかという思いから、共通の基本目標、貫く基本目標ということで提案しております。

基本構想については、ある程度分野で分かれた、先ほど言った観光は観光で分かれた目標を出しております、将来像ですね。これとのもちろん整合性は取るのですが、基本的には分野を貫く基本目標がスタートでいいかと思えます。なおかつ基本構想の分野別の素案の将来像も参考にするとといった視点で。

**山崎会長：**はい、どうぞ。

**奥田委員：**先ほど委員長から右の3ページの上のアカデミー推進計画の基本目標3つと、2ページの左下の基本構想の1、2、3というのは整合しているのかというようなお話があったのですが、これは見た目あまり整合してないような、一部整合しているような、ただ、こら辺にはあまりこだわってないというように受け止めたのですが、結局議論としては、それぞれの分科会の出発点としては、3ページの下あたりから始めてよろしいのですね。

**毛利課長：**分科会の出発点は、基本構想の3つから始めたいというふうに。

**奥田委員：**3ページの上のアカデミー推進計画の基本目標って、非常にぼんやりとした感じで書かれているので、これを出発点にしようと、同じことだと思ってしまうのですが、議論をわかりやすくしていくためには、むしろ基本構想素案のほうの3ページ下の部分のほうが非常に具体的でわかりやすいと思うのですが、これで始めるということで、今申し合わせをしちゃえばよろしいのですね。

**毛利課長：**基本的に分科会の方で議論しやすい形で、例えば基本構想の将来像の中から議論して、その結果まだフィードバックして貫く基本目標が修正になるということもあり得ます。

**奥田委員**：はい、わかりました。

**徳田部長**：アカデミー推進部長の徳田です。今回は議論が非常にわかりにくいというか、混乱しているのは、基本構想を片方で作りながら、同じような計画をまた片方で作っているということから、結構混乱しているのが今の姿かなと思っています。

基本構想は、あくまでも 10 年後の文京区のあるべき姿を出そうとしています。例えば「住んでいてよかった文京区」とか、「もっと住み続けたい文京区」という、大きな到達点を基本構想は持ちます。

それに対して、「じゃあ、そういうまちってどういうまちなの」と言ったときに、この 2 ページの下のほうに書いてありますね。基本構想素案ではこの 3 つ、「こんなまちをつくりまします」と、つまり「文京区に住んでいてよかったね」とか、「もっと住み続けたいまちだよね」、「どんなまちなの」といったときに、次の段階としてこの 3 つが、例えば「みんなが主役のまち」だとか、「「文の京」らしさあふれるまち」とか、「だれもがいきいきと暮らせるまち」というものをつくりましますという形で落ちてきているのです。

それで私どもが担当する計画の分野というのは、2 ページのところ、「子育て・教育」、「福祉・健康」、「コミュニティ・産業・文化」、「まちづくり・環境」および「行財政運営」と書いてあるのですが、「コミュニティ・産業・文化」の範疇に入っています。そして、既存の計画である、生涯学習推進計画、アカデミー構想と併せた形で、ここの分野についての計画を作りたいと思っています。

基本理念、基本目標についてですけれども、3 ページに書いてある分野別の将来像で、私どもが担当する計画の 5 つの分野について、基本構想の素案ではこんな表現で取りまとめしているのです。ですから、これはあくまでも議論の、今奥田委員が言われたように、分科会での議論の出発点になるはずなのです。

ただ、では、例えば観光でしたら、「何度も訪れたいくなる、魅力とおもてなしの心あふれるまち」と、これは一つの標語ですよ。これに対して、「では、具体的にどうやって肉付けしていくの」とか、あるいはここに表現し切れてないものがあるとしたら、それはまた別の言葉で出てきてもおかしくないわけです。

だから少なくとも分科会で議論する上で、わかりやすいのはたぶんここの表現だと思います。「何度も訪れたいくなる、魅力とおもてなしの心あふれるまちって何ですかね」と言ったときに、そこを出発点にすれば、文京区の今持っている、先ほどのアンケート調査に出たような調査結果とか、いろいろと関連してきますよね。そういう意味では、私の考えとしては、ここに出ている、この 3 ページを出発点としたほうが議論はしやすいかなというふうに思っています。

さきほどのアンケート調査報告ですが、私どももらったばかりで少ししか見ていなかったのですが、今聞いた限りでは、文京区にもものすごくいいイメージを持っていて、文化的な、歴史的な、そういう資産もいっぱいあるのだと。ところがそれはあるだけで、このアンケート結果見ても「全然それを活用してないのではないの」というふうに見えますよね。たぶん、じっくりと読んでいくと、結論としてそういうことがあるにもかかわらず「文京区は今まで何もやってないのではないの」と、たぶん出てくるのではないかと思うのです。ですから、それに対して今回きちんと計画を作ることですので、私としてはこの 3 ページに書いてあることが、一番分科会で話しやすい題材であるならば、出発点としては当然これを使うべきだと、そういうふうに考えています。

**山崎会長**：今ご説明いただきましたとおりに、上からの理念と下からの理念とありますね。当然のことながら、その議論は次の資料のキーワードから組み立てられていっているわけですから、今徳田部長が説明したように、3 ページの下の素案のところから出発をして、そして詰めていく段階で、逆に基本目標なり、構想なりの修正も可能であろうというふうに思います。つまり、今日これはあくまでも案で、これで固まっているわけじゃなくて、おそらくこの全体会と分科会の往復の中で、もう少し議論が煮詰まっていくだろうというふうに思いますから、分科会に入りましたら、今の下の 3 ページのところから、始めてください。それでいいと思います。

**奥田委員**：今の徳田部長のご説明でよくわかりました。それでですね、ちょっと先ほどの説明で、ちょっとよくわかんなかったのですが、事業計画は 23 年度から平成 25 年度までの 3 年間のものだっていう

ふうに、1 ページ目の下ですけれども、ご説明があったのですが、この計画の中には期待している成果っていうのを、先ほどのご説明だと言葉と、それから数字で表すというふうにご説明があったと思うのですが、数値目標を付けた形でもって計画を出すのですね。

**毛利課長：**今のところ考えているのは、例えば数値化できるものは数値目標を出そうかという、まだ検討中です。明確にまだ数字なのか、言葉なのか、明確なものはまだ結論出ておりません、ちょっと内部的にまだ検討したいと思っております。今のところでは数値化できるものは数値化していこうという方向性は持っております。

**小野澤課長：**恐れ入ります、せっかくお作りいただくので、数値化するとすると、実は文京区の場合、3カ年の実施計画という、数値化した計画を作っています。今年、来年度以降の計画を作っていくという時期に当たります。そうしますと、ここであまり数値化された細かなものを作ると、結局、区の全事業の数値化した実施計画との整合性がかなり問われてしまいます。実施計画に記載されたものを区は責任持ってやるというように打ち出しているものですから、あまりこのプランの中で具体性のあるものまではお書き込みいただくのは、やはり避けたほうがいいのではないかと。もう少しぼんやりした方向性、ここ3年間ぐらいの方向性、先ほど基本構想は10年後のというようなお話が出ましたけど、ここでは細かい実施的な計画であれば、「3年後にここまでやりたいね」とか、「こういう事業を開始したいね」という表現にしておいていただくとありがたいなというように思っております。

**徳田部長：**今企画課長が説明しているのは、文京区の場合には3カ年の実施計画という計画を必ず作っています。この3カ年の計画については、「区として必ずやりますよ」という区民に対する約束で、そのために実は3年にわたっての予算化もきちんと組んでいるのです。ですから、われわれはこの3カ年の実施計画というのは、文京区にとっては最大のやらなければいけない計画なのです。

ところが私どもの扱っている内容としては、この分野は施設建設というのはあまりないが、たまたま、現在スポーツ施設建設を計画しているのが異例なのですけども、仮に「3カ年で例えば10ということが必要だ」とわれわれのほうで決めたとしても、「3カ年の計画では10です」というふうに決めたとしても、そのときの状況によって、その3カ年で、10ではなくて5か6までしかいけない。いけないというのは、先ほど言いましたように区として、区は全体の計画の中で見ます。われわれ自身の気持ちとしては当然10というのだけでも、実際にはそのうち10と計画化しようと思っても、予算を付けて、必ずやるというのが実は10ではなくて5か6かもしれない。これはそのときの区の置かれている財政状況や、あるいはそのときに、例えば今でしたら文京区の場合では、特に子育て支援や、高齢者支援に向けて、どんどんお金を使おうとしています。それと同時にわれわれのところにもお金を使おうとしているのですけども、その比率があるのです。

ですから、そういう意味では、今企画課長が言っているのは、あいまいなぼやっとしたというよりは、3年で無理だとしたら、ここまでいけばいいのだということなのです。文京区の場合、ご多分に漏れず財政状況非常に悪化しています。来年はさらに悪化し、事業がどんどん減っていく可能性もあります。その代わりに、「3年間のスパンではなく3年目からこういうことを始めたほうがいいのではないか」とかですね、そのような計画になれば、例えば「1年目からこうです」というよりは実現性が高いということなのです。

ただ、これは、一種の机上の空論みたいな話していますので、実際、皆さんが分科会で事業を考えていただいたときに、3年間でどこまで行けるかというのはたぶん出てくると思うのです。例えば観光の場合には、何人観光客を呼び込みますとか、来るとか言っていますけれども、結果としては国が立てた計画も、今の経済状況の中では10分の1ぐらいしか実現できてないことがあるのです。

ただ、実際事業組むときに、もう一回その数値目標の話は出てくると思うのですが、あまりガチガチに固めてしまうと動けなくなる場合がありますと、企画課長はそういう意味での説明だったのです。

**山崎会長：**つまり、区の事情は抜きにして、つまりわれわれに自由に1つ議論させてもらいたいのです、逆に言うと。数値目標を出さなきゃならなきゃ出せばいいし、そんな無理ならばやめときゃいいのです

よ。とにかくここでは委員として、とにかく意見を出して、ただ、区の意向は頭の中に入ったん入れといて、少し自由に。

**小野澤課長：**一言すいません、決して反論するわけではないのですが、みなさんの好きなように議論というのはすごく大事なことなのですが、実は実施計画も、基本構想も、全部区民の方が作っているのです。ですから、各分野別にそれはほっといてとなると、せっかく作ったものが生きてこない可能性があるのです、申し上げているのです。一応、基本構想という一番上位の計画があって、今お話、議論いただいたとおり、それに矛盾することは絶対できませんので、せっかく3年間なら3年間のプランも、生きる計画であってほしいという意味で申し上げているということです。

**山崎会長：**はい、わかりました。ただ、私が言いたいのは、あまりこの議論は、がんじがらめに縛らないということで進めて、途中で、この議論がおかしいということになったら、それはご指導いただければいいので、少し幅を広げていたほうがいいだろうという気がしますので、そういう点で座長として発言をさせていただきました。十分承知しているつもりでおります。時々、こういうことやっていると反逆したくなる性格を持っていますから、申し訳ありません、どうも。ご意見ありましたら。

**佐藤委員：**生涯学習担当の佐藤でございます。3ページ、5つの分野が互いに関連しているものであり、単に目標を分けたのではなく5つの分野を貫くというふうにお書きになっていらっしゃいます。

データのほうをちょっと読み込んでみたのですけれども、意外や意外、個人的にいろんな技術を上げていきたいであるとか、個人的な部分に関与していくような形のデータが出ているってことが、生涯学習とスポーツのところから少し読み取れるような形がします。

それから男女とか、世代別によっても、若干目指している傾向が違うなということがあると、5つの分野を貫くってところが、逆に言うと難しいのではないかなというふうに思います。もう十分それはわかった上で書き込みをしてというか、検討していきたいとは思っておるのですけれども、その辺、どの辺を強く見ていったらいいのでしょうかというのがわからないのですけれども、もしお答えいただけるようでしたらお願いしたいと思います。

**山崎会長：**事務局への質問ですね。

**毛利課長：**今おっしゃったとおり、今回の実態調査を分析していくと、いろんな傾向が見えてくると思うのです。分科会の中では、それを材料に議論をしていただいて、分野ごとにまとめられたものと、今回お示した基本目標等が妥当なのか、修正が必要なのか検証・検討をしていきたいと考えています。まずは、分科会で議論していただければと思います。

**佐藤委員：**わかりました。

**山崎会長：**他にございましょうか。

**大野委員：**5ページ以降なのですが、資料26の表題として、基本理念・目標・視点となっているのですが、目標から始まって、この理念というのは、前のものを見ればいいということで、この表には載らないということでもいいのですね。

あと7ページなのですが、世代間交流と幅広い世代の活動を支えるって部分で、基本的目標となっているのですが、これは基本目標の2と基本的視点3を一緒に載せているということでしょうか。

**毛利課長：**この書いてある26号の表の外側の基本目標の1とか、基本目標の2とかってというのは、そのままこちらの基本目標の1に連動する形で引用しております。だから最初の基本理念というのは、ここには全体まとめたのが基本理念で「まるごとキャンパス」という形になっております。説明としては、

この基本目標の1、2の番号と基本的視点の番号とが整合させています。

**山崎会長：**今の質問は、資料の見方という形で、かなり重要だと思うのです。つまり、5ページから皆さん方がいろいろ出してくださったキーワードを言葉として左側に書き込んであるわけです。そこに基本目標1とか、基本目標2とか、3とか、あるいはまた3とかっていうふうになっていて、そのことと2ページ目の基本目標の1、2、3という数字と、そこが合うという、つまり3ページの基本目標の1、2、3という言葉がどこから出てくるかという、5ページから10ページまでの、むしろ8ページと書いていいでしょうか、そこにいろいろ皆さん方から得たものを基本的な視点という形で1、2、あるいは3というふうに押さえてあるわけですね。

ただ、1つ今ひょっと気が付いたのですが、基本視点の4とか、5とかっていう、これはどういうふうになりますか。

**毛利課長：**基本視点は1から5までです。

**山崎会長：**1から5までと、こちらの。

**毛利課長：**これは基本目標、基本目標は1から3まで。基本視点は1から5までです。

**山崎会長：**ちょっと私の説明がまずかったので訂正させてください。今の4ページにある基本視点の1から5までですね。5までと、今の基本目標の1、2、3というのは、3ページの1、2、3と照応するわけですね、まず。同時に4、5というのが、4ページの4、5に照応すると、対応すると、こんなふうに見てください。いかがですか。

**市川委員：**すいません。観光分科会の市川でございます。先ほど小野澤企画課長の方から、文京区でも事業計画を今作成しているところですのでお話があったのですが、われわれが作る事業計画と文京区が今作っている事業計画とどういう関係になるのでしょうか。つまりわれわれが作った事業計画は、文京区で今作られている事業計画に反映されないということなのでしょうか。

**小野澤課長：**ちょっと言葉が足りなかったようで、本当に申し訳ございません。ちょっとくどくなってしまって恐縮ですけど、先ほどから議論に出ている、現在作っているのは基本構想です。基本構想については、申し訳ないですけど、今この会だけではなくて、都市計画のプランとか、今いろいろ計画が動いているんですけど、すべて整合性が絶対求められるという条件ですのであまり気になさらなくてもいいようなお話です。

これからの具体的なプランというのは、基本構想が実は6月に策定されます。そうしますと直ちに来年度からの3カ年の各事業の規模を盛り込んだ事業計画を作っていくのです。そこにはある程度一定の予算の、先ほどお話したように担保するような形で必ずやります。ですから、ここでのプランが、生きるためにも、あまり細かな数字を上げたような、「こういう事業を来年度からやっていきましょう」という計画をお立てになられると、そのプランとまったく同じの性格になってしまうので矛盾が生じることになってしまいます。もう少し中期的な目で、例えば「こういう事業を準備しましょう」とか、「始めていきましょう」とかというような書き込み方でのプランに仕上がっていただければ、実施プランにも即ここでのプランが生きた形で、例えば事業計画に盛り込まれていくという可能性があるものですから、そういう面で発想するものはもう自由におやりいただきたいと思っております。ただ、整合性をせっかくだから取りたいというお話をちょっとさせていただきました。

**市川委員：**市川です。わかりました。ということは、文京区のほうで作られる事業計画は1年間ものなのでしょうか。

**小野澤課長：**一応3年間を目指したものでやっていきますが、計画内に修正があれば、当然毎年予算立

ては必ず国と同じように行います。その中でどういう規模で、「今年はここまでやろう」、「今年はここまでやろう」という意味で反映させていきますので、毎年ローリングはしないのですが、一定3年期間の中での流動性はある形で実行するという形になります。

**市川委員：**わかりました。そうすると、われわれが来年作る事業計画は、文京区で作られた事業計画をある程度頭に入れながら作らなければいけないのか、まったく無視してもいいのか、基本的な考えはどちらなのでしょう。

**小野澤課長：**基本的には若干重なっていくと思うのですけれども、3カ年の実施計画が実際にまとまっていくのは、今年の年末ぐらいの時期になり、来年度の予算に反映するということになります。従って、ここでの分科会が4月から活動されて、ある程度の素案みたいなものがどんどんできてくれば、多少なりともそのプランは、当然所管課であるアカデミーが吸い上げて、それを来年アカデミー推進部とすれば3カ年の実施計画に載せようという形で実施計画に持ち込むはずで、そういう面ではこの議論が、私は生きる余地は十分にあると思っております。

**市川委員：**わかりました。ありがとうございました。

**徳田部長：**要するにこの4月から年度でいうと22年度に入って、分科会で議論を進めていきます。最終的に計画として取りまとめるのは、年末なり、翌年始めかもしれないのですが、同時に22年度には、23年度から25年度までの3年間の文京区としての計画を同時に作るのです。ですから、もしこの4月以降の分科会での議論で、かなり事業計画として、反映できるものがあれば、当然われわれのほうから23年度から始まる計画に、盛り込んでいくという形を取ります。

22年度からの議論の中で、これは今すぐスタートするのではなくて、もう少し練ってから、例えば2年とか、3年先からスタートしたほうが効果があるのだとなれば、3年間の計画では、25年スタートの計画のほうに盛り込んでいくということで、必ずその分科会での議論をわれわれのほうで吸い上げて、計画から持っていく予定です。

そういう意味では、まったく無視してやるということではなくて、少なくともここはここでの考え方として議論していただければ、その結果については、十分反映できるものは、それこそまさにすぐ反映させたいものがあれば、翌年度にすぐ反映させるようにやっています。

**市川委員：**ありがとうございます。

**山崎会長：**はい、どうぞ。

**國分委員：**国際部会の國分でございます。今のお話をもう少し具体的に私の国際分科会の立場でちょっとお尋ねしたいのは、3月10日の区報の中に、現基本構想の最終年度の取り組みとしてということで、具体的な施策が書かれておまして、その2面に「歴史と文化を生かしたにぎわいのあるまち」という題目で、第1項目がアカデミー推進計画の策定、おそらく今日私たちが議論している点だと思うのですが、お尋ねしたいのは、その中に並行しまして、観光ビジョンに基づくまち歩きルートの開発が1つと、それから中国、韓国などアジア圏の都市との相互交流の促進と、これが掲げられているわけです。

私これ拝見したときに、ちょっと今日お尋ねしたいなと思ってまいったのは、今の議論の中で、これは区報にはっきり書かれていますけれども、現基本構想の最終年度の施策になっていますから、もうすでに決定をされている施策でこれから実行ということですので、例えば国際部会の場合は、この中国、韓国などアジア圏の都市との相互交流の促進ということは、もうすでに決定していると、私たちがこれから3カ年の事業計画を考える場合は、これはもうすでに動いているのだという前提で私たちの分科会が議論をしていいのかどうか、これは1つお尋ねしたいと思います。

**徳田部長**：アカデミー推進部長の徳田です。今お読みになっているのは、区報に出ている区長の所信表明ですね。区長の所信表明というのは、毎年この時期に翌年度、つまり22年度、「1年間何を主にやります」とか、あるいは「こんな予算を作りました」ということを議会に報告して、区民の皆さんにお知らせしているのです。ですから、22年度4月以降なのですが、22年度については、そこに出ているように基本構想も作ります。それから国際交流の分野に絞れば、中国、韓国との友好を深めます、というように、これは22年度に区として取り組む内容です。

ただ、国際のほうでご議論願いたいのは、当然、姉妹都市の在り方も含めてなんですけれども、中国、韓国だけでいいのかとか、あるいは当然区民の要望からいくと、英語圏との関係を深めてもらいたいという意向も区民の間にあります。ですから、そういうことについては、これから分科会の中で議論していきます。区報に出ているのは4月以降、この1年間で文京区がこれをやりますということの中身です。

**國分委員**：わかりました。

**徳田部長**：ですから、基本構想についても、要するに基本構想を作りますというふうに書いてあるのです。

**國分委員**：そういう表現になっています。

**徳田部長**：6月に作る予定なので、そのように言っているのです。

**國分委員**：ただ、ちょっとお尋ねしたのが、アカデミー推進計画の策定という計画と、今の具体的な計画が併用して書かれておりましたので、もうすでに決定済みと、それからこれから将来の計画と分けて私たちは考えるべきなのかなというふうに。

**徳田部長**：そうですね。まさに今これから1年かけてやろうとしているアカデミー推進計画を作りますということは、これは計画ですよ。それ以外に中国、韓国との関係というのは、これは先ほどから出ている説明では、事業計画みたいなものに落ちてきます。当然、東南アジアなどとの関係を強めよということも出てくるのですけど、ただ、事業として予算化しているのは、中国、韓国との友好を深めましょうという意味です。それをアカデミー推進計画の中にどういう形で取り込めるかということはこれからの議論なのですけども、もう国際は何でもかんでも中国、韓国よという話ではないですということです。

**國分委員**：わかりました。

**山崎会長**：むしろ我々のところでは国際交流の在り方みたいなことを、どうしてもやっていくことになるだろうということです。

**國分委員**：そうですね。それともう1点お尋ねしたかったのは、今議論に出ておりました、新たなる基本構想の中で、これは昨年第1回目のときに、座長の久松先生からお尋ねしたと思うのですけども、基本構想では「交流」となっているのです。アカデミー推進計画では「国際部会」ということになっているわけなのですが、今のお話の中で「基本構想のこの素案の中で分科会を議論しなさいよ」という今の話の流れからすると、私たち国際分科会のほうは、交流のこの、要するに国際交流ということだけでなくもっと広く考えて、私たちの部会で議論を進めるべきなのかどうか、その辺をちょっとお尋ねしたいということです。

**毛利課長**：新たなる基本構想の素案の中の交流というのは、国際交流だけではないのです。もうちょっと広い意味の交流なのです。私もアカデミー推進計画で議論したいのは、国際交流というふうにある程度限定した形で進めたいと思っています。

**國分委員：**そうしますと最初に配っていただいた中には、具体的にこの基本構想の交流の内容がずっと書かれていますけども、今ご指摘のように国際に限ってないわけですね。そうすると国際部会の立場としますと、いただきましたこの基本構想の交流の部分の具体的な内容の中で、国際の部分に限定して私たちは議論したほうがいいと、こういうふうに解釈してよろしいでしょうか。

**毛利課長：**そうですね、国際交流という限定で。

**國分委員：**例えば都市交流の場合にも、どこの区もそうなのですが、海外との姉妹都市協定と並行しまして、国内の都市との都市交流もあるものですから、私自身は今までの議論の中で、この交流というものがありませんでしたから、両方の議論をこの国際部会でしていいのかなというふうに考えておりましたけども、その辺をちょっと確認していただければと思います。

**徳田部長：**ここで、アカデミー推進計画のほうで議論していただきたいのは国際交流の話です。それ以外に実は、今言われたように国内交流も、例えば文京区ですと、やまびこ荘のある魚沼市と実は関係を結んでいて、それ以外にも関係結んでいるのです。ですから、イベント等によく、物産展などを行っています。要するに、国内は「国内での国内交流どうしましょう」ということについては、別なところで議論している話なのです。ですから、ここはあくまでも国際交流だというように限定して考えてください。

**國分委員：**わかりました。

**徳田部長：**最初の議論の出発点についてはです。

**山崎会長：**ほかにご意見ございましょうか。はい、どうぞ。

**新保委員：**観光分科会の新保です。3ページの基本目標についてなんですけれども、基本構想があくまでも上位計画で10年計画と、これが長期計画ということになるかと思います。こちらで5つに分けて、非常に具体的に示されているわけなんですけれども、これに対してアカデミー推進計画は短期計画、あるいは中期計画ということで、10年後の長期計画の目標達成に向けて、まず何をやるかというのをここで目標を示すということだと思います。基本構想で将来像って書いてありますが、これは要するに10年後の目標ですよ。ですから、10年後の目標を達成するために、アカデミー推進計画がまず最初の1期目で何をやるのかというのを示さなきゃいけないと、目標を立てなきゃいけないと。そうすると上位計画が5つで具体的に示されているのに、それを実現するための中期あるいは短期の目標が曖昧模糊としていては、10年後の具体的な目標達成が、先ほど奥田委員がおっしゃったように達成できないのかなと、曖昧すぎてと。むしろここはアカデミー推進計画における短期あるいは中期の計画は、各分科会に委ねて、「10年後の基本構想にうたってある姿、これを実現するために、まず最初の何年間かはこういう目標を立てよう」というのは、むしろ各分科会に委ねるべきだと思いますがいかがでしょうか。

**毛利課長：**今のご指摘なんですけれども、分科会で議論していただいて、それを基本構想の出発点にする。それはいいのではないかと思います。

**長尾委員：**長尾ですが、私は基本構想委員会にも実は一部出ているのですけれども、2030年ぐらいが目標なんですけれども、10年ぐらいってというのは、今世の中早いのですから、その委員会で私は例えば数値目標を入れるべきだという主張をしたこともあるのです。そうしたらその委員会では、「ここでは10年後のことを決めるのだから、方向性だけにしてくれ」と、その実効的、実際的な問題については下の委員会がある。例えばこのアカデミーもそうなのですが、あるいは先ほどの区の3年後の事業計画というのがありましたけれども、「そういうところでやってくれ」という話がありました。従って、今おっ



しゃったようなご意見と私は同感で、短期、中期のある程度の具体的な方向性だけは打ち出すべきだと考えています。以上。

**山崎会長：**どうもありがとうございました。少し先に進めたほうがわかりやすいのではないかと思うので、先に、具体的な分科会の進め方ですね、そちらを少し説明いただくと今の議論が少し具体的になると思いますので、次の議題の分科会の進め方について、事務局からお願いします。

**毛利課長：**それではお手元の資料の第 27 号になりまして、分科会の進め方というところをご説明いたします。こちらは、この親会である策定協議会と分科会の流れの検討内容ということで、こちらに図式してあります。左側が今行っている策定協議会、これが第 4 回、今年 3 月ですね。これ以降 4 月から分科会に移るわけです。ここに第 1 分科会から 2 回、3 回、4 回と書いてありますが、必ずしも 5 分野で必ず 4 回やらなければいけないとか、そういうことではなく、もう 1 つの形なのですけども、4 回やる場所もあれば、3 回で終わるところもあるでしょうし、4 回で足りないという分科会もあるかも知れませんが、とりあえず 4 月から一緒にスタートしていただきます。

基本的に、例えば第 1 分会で、第 1 回目の分科会ですと、上に書いてあるとおり、分野別の課題の洗い出しとか、分野別の方向性といったものを検討のテーマにさせていただくという形になります。具体的には、例えば検討の方法としてワークショップといった形で、分科会の中で各分野の課題の洗い出しを行う。また、各分野における方向性の検討を行うといったようなこととか、あと観光分科会ですと環境ビジョンがございますので、そういった観光ビジョンの共通、内容の共有を図るといった形で、例えば第 1 回の分科会で各分野のキーワードを出してみると、そういったものが 1 つの方法になるかと思いません。

続きまして第 2 回の分科会に移りますと、この検討のテーマとしましては、分野別の目標、今まで言っていた目標とか方針は結構貫くと言っていたのです、今度は分野別の明確な目標・方針等を検討していただく。それは会議方式でもよろしいかと思えます。成果品としては、キーワードを参考に分野別の目標・方針を成文化してもらって出させていただくといったところが第 2 回目です。

第 3 回の分科会に移りますと、これを分野別の先ほど出しました目標・方針の再検討を行うと同時に、具体的な事業についても議論してもらおうといった形になるかと思えます。第 3 回の分科会の 1 つの目標としましては、成文化した分野別の目標・方針を修正した上で、なおかつ計画に掲載する事業の検討を行うといった形を示していただきます。

そして第 4 回の分科会にいきますと、ここでまた分野別の目標・方針の再々確認、そういったものを行っていただいて、各分野の素案、分野ごとの素案を作成すると、そういった形の流れになって、それを親会である第 5 回に持ち上げて調整を行う。そのような大きな流れを分科会でやりたいと思っております。

**山崎会長：**はい、どうもありがとうございました。そういう流れを踏まえて、ご意見を伺いたいのですが、はい、どうぞ。

**奥田委員：**観光分科会の奥田です。聞き漏らしちゃったのではないかと思うのですが、第 5 回の策定協議会というのはいつやるのでしょうか。

**毛利課長：**一応分科会が 5 分野全部 4 回やれという意味ではなく、1 つの形式で 4 回程度書いております。それが 8 月上旬に一応分科会としてまとめるということです。

**奥田委員：**親委員会。

**毛利課長：**親委員会はその後、22 年 9 月ですね、8 月上旬で終われば、直近の 9 月下旬に第 5 回をやりたいと思っております。ただし、この第 4 回分科会がもうちょっと早まれば親会も早まります。その分科会のまとめ次第ですね。今のところ第 4 回分科会が 8 月上旬ですから、その後の第 5 回策定協議会、親

会は22年9月下旬を予定しております。

**奥田委員：**わかりました。4月から8月までの間、一応枠では4つ切っているのですが、早く終わっちゃったら3回で終わっちゃってもいいと、あるいは議論の進み具合では5回やっても、6回やっても構わないというような感じでいけばいいですか。

**毛利課長：**ただし、スケジュールの日程がありますから、例えば4月から始めて8月ぐらいまでには、一度まとめたと思います。例えば4回で足りなければその中に5回やるとか、早く終わるところは3回で終わるということも考えられます。

**奥田委員：**わかりました。それからもう1つ教えていただきたいのですが、9月の策定協議会が1回でおしまいになればいいのですが、これがちょっと間延びをするという形になると、23年度予算との関係はうまくフィットしなくなっちゃうのですね。

**毛利課長：**それは先ほど部長も話しましたが、確定してからではなく、ある程度見込みが出てくれば、アカデミー推進部として、ある程度形ができた段階で予算に必要なものであれば要求していくという流れになります。

**奥田委員：**よくわかりました。

**大石委員：**スポーツ振興分科会の大石ですけれども、これからの分科会でいろいろ話し合われると思いますが、その中で、このアカデミー推進計画の基礎調査報告書の中で、スポーツのところで、65ページにございますけれども、これをずっと見ていくと文京区の中でのスポーツ施設とか、スポーツやる場所というのはもう限られているわけです。それにもかかわらず、もっと使い勝手がいいようにとか、もっと一般の人が参加できるようなとか、いろいろ注文があるわけで、これは当然だと思いますけど、そうするとこの分科会で、いわゆる夢みたいなことを話し合っ、実際それを具体的にする場合に、いろんな条件が出てくると思うのです。

例えば学校の、「小中学校の校庭を自由に開放させてくれ」といった場合に、「体育館を使わせてくれ」という場合に、学校側の都合もあるわけ。それから体育館なんかでも、区の体育館は改装・改築する可能性もあるわけ。それから国体の問題近くあると。そうしたこととの関連を考えますと、自由に検討するのは結構ですけれども、「実はこういうような課題が今あるのだ」ということを先に説明していただかないと、自由に言って、あとは実現不可能というのじゃまずいと思うのです。

そういう点で、最初の分科会で区のほうのそういう課題とか、問題点とか、そういうのを全部それぞれの分科会に合ったものをまずご説明いただいて、それから入ったほうが実現の可能性が強いのと思うのです、いかがでしょうか。

**徳田部長：**アカデミー推進部長です。今そのご意見のとおりだと思っています。それで、今回「会議開いても何を言ってもいいかわかんない」という雰囲気があると思うのですが、これはですね、「最初に大きな理念みたいなものを考えて、それから目標を考えて、何だかんだ考えて、最後事業でやりましょう」というきれいな図式なのです。実は、これまで2回ほど皆さんにご自由な発言していただいた中から、キーワードになるのを全部引き抜いて、今日渡しているような形で組んでみたのです。ただ、これは要するに皆さんが言われたキーワードを組んだだけの話なのです。だからそれでいいのかどうかということにはわかりません。これは後でそれぞれ分科会の中で議論してもらわなければならないのです。

ですから、分科会ごとに、例えば観光の場合ですとすでに観光ビジョンっていうのが去年できていまして、今からそういう考え方を作るのではないのです。そういった事情がまずあります。それからスポーツについても、これからスポーツ施設の改修が目白押しになっています。そういう意味ではほかの分科会もそうだと思うのですが、分科会ごとにおそらく議論の仕方というのはたぶん違ってくるのかなというふうに思うのです。

ただ少なくとも、もう1回繰り返しますと、最終的に9月の時点というか、8月の終わりの時点では1回とにかく、「どこまで何がどうなったのか分科会ごとにそれは締めてくださいよ」という話です。9月に1回全体会やって、「どうしましょう」とまた、皆さんで議論していただいて、「ここだけは守ってくださいよ」といったときに、あとは回数、やり方含めて分科会でお任せしてもいいかと思っています。

ただ、そのための条件として、第1回のときには、今区が抱えているそれぞれの分野、われわれが日々の仕事として担当している5つの分野の「こうした課題があります」ということについては、それはわれわれのほうからまずご提示をします。そこを出発点に議論していただければ、「あるいはスポーツ施設がたくさんあればいいよね」、「それはそうですよね」ということなのですが、「じゃあ、現実はどうするのですか」といったときに、その「たくさんあればいいよね」という意見はそれ以上行けなくなっちゃうのですね。「じゃあ、どうしよう」と、今度は使い方の話になってくると思うのですけどね。

ですから、そのような課題については、現状についてとにかくわれわれのほうで、1回それぞれ事務局いますので作ってお出しします。それから議論されたらと思うのですが、会長、そのようにさせていただきます。

**山崎会長**：わかりました。はい、どうぞ。

**長尾委員**：長尾です。全体会9月に1回ということですがけれども、最後これまとめということなのでしょうか。そうだとすれば1回で終わらないのではないかとと思うのですが、その辺はどんなものですか。

**徳田部長**：アカデミー推進部長です。そういう意味ではなくて、「8月いっぱいまでまず分科会で議論してください」と。それで全体の協議会で「9月に1回それを取りまとめましょう」と。それから全体会を何回か続けていきます。

**長尾委員**：まだやるわけですね。

**徳田部長**：もちろん。

**長尾委員**：了解。

**徳田部長**：それで分科会ごとで話をしていると、たぶん最初は分科会ごとにそれぞれのテーマで話をしていると思うのですが、さっき言ったように例えば国際とスポーツの関係とか、あるいは観光が一番広いかもしれないですけど、観光とそれ以外の分科会の関係とか、おそらくそれぞれ単独ではなくて、重なりが出てくるのではないかとと思うのです。まさにその辺をらまず9月で整理したいという意味です。まだ行いますから、大丈夫です。

**山崎会長**：青木委員、何かアドバイスありますか。

**青木委員**：基本的に考え方としては、座長の取り扱いというのは、委員の民意ではないですがけれども、それを取りまとめていくというような形で、流れとしてはキーワードを出して、そこからそれぞれの目標・指針を出すと、それからある程度そこを踏まえながら、「10 年計画のうち、前期として約3年のうちに、だいたいこんなところのここまできれればいいよ」というようなところを8月のところまでできればいいというような形の認識でよろしいのでしょうか。

**小野課長**：10 年という計画ではなくて、大変長いスパンで長期的なものの中のまず最初の3 年、取り組みについて何をやるかという形をまとめてもらいたいと思います。

**青木委員：**具体的に長期的なっていうのは何年を。大学とかだと、10年だとかなり長期プランという形なので、区の考える長期っていうのは50年なのか、100年なのか、何なのかというところはどのようなのでしょうか。

**小野課長：**一番最初に毛利課長のほうで説明があったのですが、基本構想は10年なのですが、それを超す長期的なスパンなのです。ですから、何年というような区切りは、ちょっと今のところできないという形です。ある意味普遍的なものというふうに考えていただければいいかと思います。

**山崎会長：**それはやっぱりこの議論としては、それだけのことを与えられるなら、夢、理想を語っても構わないことになってしまう。そうではないだろうと。やはり一応、先ほどから出ている、一応10年程度というスパンの中でというのが現実的じゃないですか。つまりほかの委員会とあまりバッティングしないということを考えれば。どうですか。

**徳田部長：**きっかり10年というふうに区切るかどうかという問題はあるのですが、少なくとも目安として、やっぱり10年ぐらい先になると思うのです。それで先ほど言われたのですが、まず、じゃあ、基本構想があって、「最初の3年どうしよう」、「これだけやろうね」というときには必ずその先があります。それが方向性です。例えば「この事業についてはこういう方向性でしょう」と。これはたぶん3年を超えて出てくるはずですが、ただこれが、では、50年先か、100年先かということですが、だいたい10年程度、常識として、10年程度考えるのが普通ではないですかね。それは、だからきっかり10年先とくくってやると、ちょっとこれは違ってきますのでね。

**青木委員：**そういうところで、ある程度委員の中の共通認識として、先ほど普遍的というよりは夢物語になるのですが、10年というとなんとなくイメージが付きやすくて、そのうち3から5年計画というところのイメージの問題だと思いますので、そんなようなところを各分科会の中で共通認識という形で、ここでやっていただければいいかなというふうに思うのですが。

**山崎会長：**ありがとうございます。

**佐藤委員：**生涯学習分科会の佐藤です。どうもすいません。アンケートデータをどこまで反映していいかっていうのを、ちょっと教えていただきたいと思います。なぜなら、3ページに書かれている、3番の「多様な連携によるネットワークづくり」というようなところが基本目標の案としてお書きになっていらっしゃるのですが、アンケートの97ページに、これ面白いデータが出ているのですけれども、こういうのが出ています。他地域、団体との交流を推進することって2.5パーセントしか期待されていないという形になってくると、これはアンケートの数値は2.5パーセントの評価にもかかわらず項目として上げていくっていうのは、若干アンケートデータと矛盾しているかなと思います。

むしろ拠点をつくってほしいみたいなところのほうがデータ的には高いものを持たれているというのがあるのですが、これはあくまでもアンケートの数値っていうものは参考だけにして、一応われわれで思うような理想形のようなものを目指していくのか、それともやはりアンケートがこういうデータが出ている以上は、なるべくアンケートの意向に沿って分科会等の計画も立てていったほうがいいのかというところの目安を教えてください。

**徳田部長：**別にアンケートの結果に引きずられることではなくて、ただこれは、このアンケートは全区民を対象としたアンケートですので、それなりに回収率もあります。「区民の方はこう考えているのだ」ということは、絶対に無視はできません。これとまったく離れた結果というのは、それは想定できません。

それから、この表の見方なのですが、例えば先ほどから幾つか説明したのですが、「生涯学習に参加したか」とか、「スポーツやりましたか」といった質問に対して、「やってません」という答えもありました。一番多い理由は、当然のことながら「学業とか、家事で忙しいから」というのはどこでも

そうです。ところがその次、2番目、3番目と見ていくと、例えば「どういうものがあるのかわかんない」とか、「情報がない」とか、あるいは「誰も声掛けてくれないから」とか、何かあります。そういうふうに見れば、では、この人たちがもし本当に参加しようと思ったときに、何を、われわれ区として考えなきゃいけないのかについては、たぶん。アンケートしなくても、「たぶんそうだよね」という常識的な線とそんなには変わってないと思っているのです。

ですから、一つ一つについてあんまり克明に読んでしまうのではなく、ただ、区民はこう考えているということを前提として皆さんでご議論いただければ、決してここから離れることはないと思うのです。

**山崎会長：**ほかにございませんか。無視できない参考資料であると、こう思ってください。

**武智委員：**スポーツ振興分科会の武智と申します。分科会が4月からスタートをして、先ほど小野澤課長がおっしゃった、10年後の基本構想が6月ごろに出てくるということで、ちょうど分科会3回目ぐらいのときにそれがたぶんわれわれも目にするかと思うのですけども、目にした時点で、その取り扱いというか、整合性みたいなことを先ほどおっしゃいましたけど、そういったものはどういうふうに取り扱っていいものなのか、それをちょっと教えてください。

**小野澤課長：**本当に、厳密に言うると、基本構想を作り替えたときというのは、それこそ整合性が取れないプランは、その時点で廃止してまた作り直すというのが本当の意味での成り立ちです。ただ、そんなことは現実的にあり得ないですし、先ほど来申し上げているとおり、基本構想は本当に非常に理念的なもの、多少書き込みはあるのですけれども、「こんな姿になったらいいな」ということですので、まずこちらの議論と矛盾することは、私ほとんどあり得ないなと思っているところです。

ですから、もちろんすぐ完成しましたら配付をしますし、実は今ほとんど素案という形で、今パブリックコメントということで、各家庭に折り込みして、ご意見をいただいている最中です。毎日のご意見をいただいていますけれども、大きくは正直言ってそんなに変わってこないかなというふうに思っております。ですから、今時点でもほとんど検証できるレベルですし、6月にできたら皆さまには、すぐお手元に各分科会を通じてお渡しさせていただきますので、その中で大きな矛盾が出れば、ご指摘いただき、その時点で調整はさせていただきたいなというふうに思っております。

**武智委員：**ありがとうございました。

**山崎会長：**ほかにございましょうか。だいたいご意見が出尽くしたというふうに考えていいですか。そうすると基本的には、分科会の議論をまず進めていただくと。その分科会の議論の中で、何回か会を重ねていくところで、おそらくお互いに重なり合う部分の議論というようなものもあるだろうし、幹事の方が出ていますから、そのときの情報がおそらく各分科会に寄せられるだろう。例えば「観光のほうでこのような話が出ているよ」というふうになってくれば、また国際交流のほうでもそれを受けて議論は進むだろうと、そのために幹事の皆さん方が入ってくださっていますから。そして今小野澤課長言うように、常にいろんな分科会に、あるいはいろんな審議会に出ていますから、そういう情報が区のほうからもたらされるということで、われわれのほうでは、その点に関しては十分資料を提供受けられるというふうに考えていだろうというふうに思っております。そんなところでいいですね。

**毛利課長：**分科会の運営のところでお話したのですけども、それぞれ所属の分科会に入っていたのですけども、興味があれば他の分科会にも参加できると、最初運営のところでお話ししました。ただし謝礼は出ないということで、ほかの分科会に興味があれば、顔出しできるということです。

**山崎会長：**分科会の進め方については、このようにしていきたいと思っておりますが、今日、日程表も配られていますから、一応確認をした上で、事務局のほうから説明願います。

**毛利課長：**それでは、お手元の「第1回分科会のスケジュール」という横版の資料をお読みください。

事務局のほうで座長と事前に日程調整いたしまして、このような形で第1回目の分科会をスタートしたいと思っております。それぞれ分科会ごとに開催日、時間がすべて午後6時半から概ね8時半程度、場所は第1回がすべてシビックセンターの21階の会議室で行います。ご覧のとおり4月にすべての分科会がスタートいたします。よろしく願いいたします。

**山崎会長**：他に委員の皆さん方から何かございましょうか。

**長尾委員**：文化芸術の座長さんの水越委員ですけれども、今回も前回もお休みですけれども、4月のこの分科会、第1回はおいでになることを確認されているのでしょうか。

**毛利課長**：もちろん座長に確認した上でこの日程を決めました。

**長尾委員**：そうしないと困ると思って。

**毛利課長**：そうです。日程調整しましたので間違いないです。

**山崎会長**：今日は出席の予定でしたが、大学で急きょ用事ができて、本日、欠席ということになっています。申し訳ありません。ほかにございませでしたら、若干時間が早いのですが、これで終了させていただきたいと思えます。どうも本日はありがとうございました。

以上